

# 琉球大学学術リポジトリ

## 日本留学試験の活用と渡日前入学許可導入への取り組み

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学留学生センター 公開日: 2008-07-03 キーワード (Ja): 日本留学試験, 渡日前入学許可, 海外への広報活動 キーワード (En): Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU), Pre-arrival Admission, Information activities for overseas 作成者: 金城, かおり, Kinjo, Kaori メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/6582">http://hdl.handle.net/20.500.12000/6582</a>

## 日本留学試験の活用と渡日前入学許可導入への取り組み

金城 かおり

### 要 旨

「地域特性と国際性を併せ持つ大学」を基本理念に掲げ、琉球大学では国際交流の推進、学生交流の推進に努めている。留学生の受入れは、留学生に対する教育研究だけではなく、日本人学生にとっての異文化理解教育、更にはキャンパスの国際化、国際人としての人材育成の上でも大変有意義なことである。琉球大学では、学部在籍する留学生数が少ないことから、学部レベルの留学生増加を目指して留学生受入れ体制の見直し、入学試験制度の改善を行った。主な改善点は、日本留学試験の活用と渡日前入学許可制度の導入である。ここでは、琉球大学における留学生受入れの現状、入試制度改善及び留学生受入れ推進のための取り組み、そして今後の課題について考察する。

キーワード：日本留学試験，渡日前入学許可，海外への広報活動

### 1. 琉球大学における留学生受入れの現状

琉球大学では、「地域特性と国際性を併せ持つ大学」を基本理念として掲げ、アジア・太平洋地域との交流を中心として世界に開かれた国際性豊かな大学を目指している。国際交流推進の一つの柱として留学生の受入れにも力を入れており、交流協定締結による学生交流の促進、留学生特別コースの充実、短期留学プログラムの実施等により留学生受入れ推進に力を注いできた。海外から留学生を受け入れることは、単に留学生に教育・研究の機会を提供するだけではなく、キャンパスにおける国際交流により日本人学生の異文化理解促進、国際人としての人材育成に寄与し、諸外国との友好関係を構築する上でも重要であることは広く認識されているところである。

琉球大学で受け入れている留学生数については、図1のとおり、平成2年で112名、平成6年には225名、その後横ばい状態が続いた時期もあり、平成17年5月1日現在は274名となっている（琉球大学学術国際部留学生課，2005）。図2は、学生身分別の留学生数の推移である（琉球大学学術国際部留学生課，2001-2005）。このように、本学で受け入れている留学生の割合は、大学院生が圧倒的に多く、常に約半数を占めて

いる。一方では、学部学生数の割合は大変低く、平成13～15年は22～25名で推移している。

留学生受入れによるキャンパスの国際化、教育研究の活性化を目指している本学にとって、日本人学生と留学生が共に学び、相互の理解、協調を深めるためにも、学部レベルでより多くの留学生を幅広く受け入れることは大変有意義なことである。

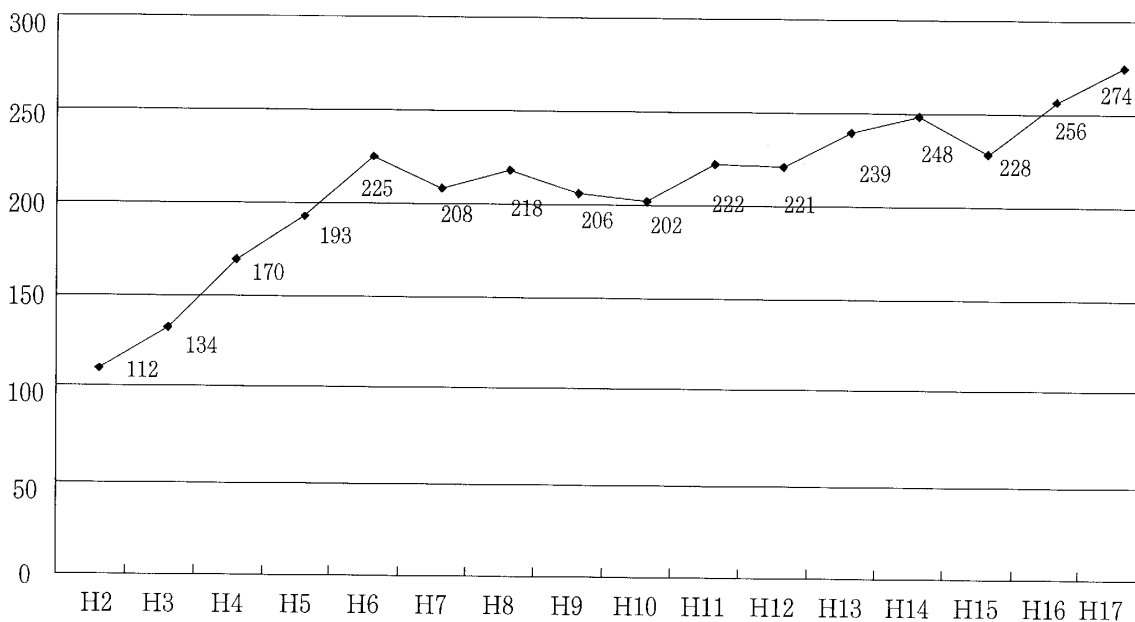


図1 外国人留学生数

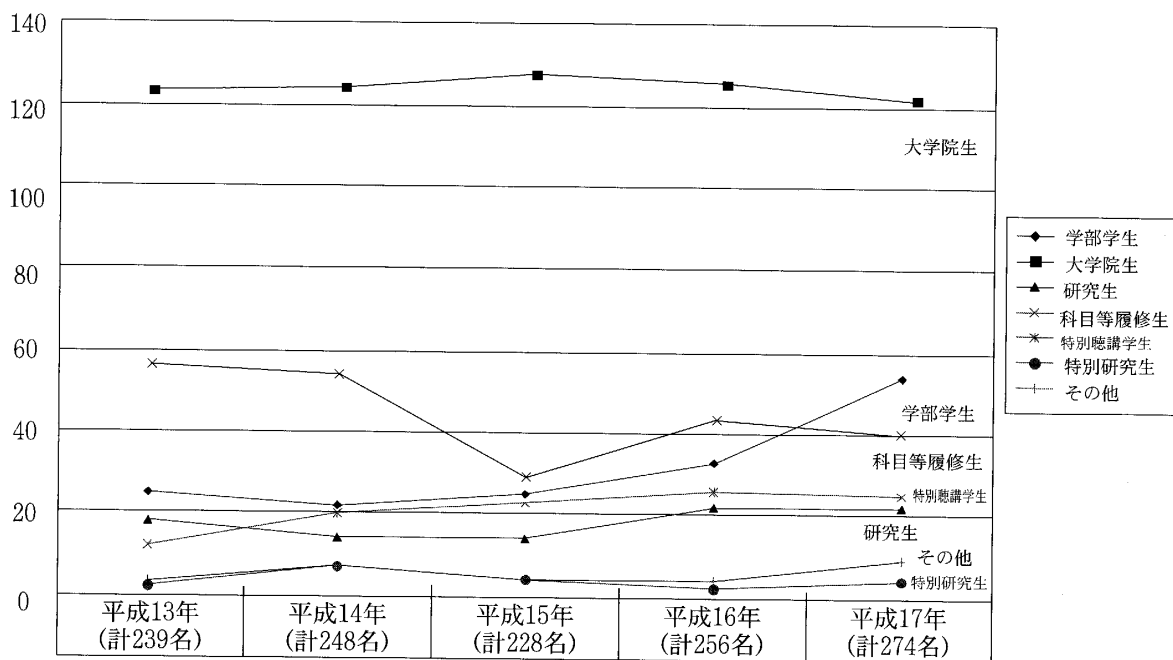


図2 学生身分別留学生数

## 2. 入学試験制度の見直し・改善

学部に入学者の留学生数が少ないというこのような現状について、留学生センター、留学生課では平成14年に本学で日本語を学習する科目等履修生の留学生に対して意識調査を実施し、学部、留学生センター、留学生課、入試課において従来の学部入学試験及び選抜方法について見直し・検討を行った。

外国人の入学試験に関しては、日本国際教育協会（現在の日本学生支援機構）が従来実施していた「日本語能力試験」と「私費外国人留学生統一試験」の二つに代わる試験として2002年より「日本留学試験」の実施を開始した。また、海外からの大学受験の負担を軽減し日本留学を促進することを目的として、日本留学試験の成績を利用して日本留学希望者が海外から直接出願し、渡日することなく入学許可を得る「渡日前入学許可制度」も導入された。

このように日本留学のための入学試験・入学許可制度が整備されたこともあり、琉球大学でも学部レベルの留学生増加を目的とした大学入試制度の改善を行った。海外の日本留学希望者にとって、来日して大学受験するための渡航・滞在費用はかなりの負担である。ましてや本学のような地方大学の場合、大都市の大学を受験するよりも更に旅費がかさむことから、留学希望者に経済的及び心理的負担がかかり、大学入学までの道のりを余計に遠ざけてしまうことにもなりかねない。

実際、海外からの留学問い合わせや留学案内の対応の中でも、海外や日本の首都圏での入学試験は実施していない、受験するためには沖縄まで来なければならないと説明すると、たいていの場合留学希望者は受験に難色を示し、せっかくの本学への関心や留学の意欲をなくしてしまうということになってしまっていた。このような現状を改善すべく私費留学生の学部入学選抜方法の見直しを行い、平成15年度実施の入学試験より全学部で日本留学試験を利用し、更に法文、工学、農学部の8学科で日本留学試験を利用した渡日前入学許可制度を導入した。学部入学に必要とする日本留学試験の得点レベルに関しては、過去に受け入れた留学生の学力レベルや他大学の学力基準を考慮した上で各学部にて検討し、また留学生センター日本語専任教員、入試課とも調整・検討を行い、「日本語200点以上」かつ「基礎学力（文系は「総合科目」「数学」、理系は「理科」「数学」）200点以上」という学力基準に設定した。なお、「渡日前入学許可制度」を導入した学部・学科は、以下のとおりである。

法文学部：総合社会システム学科，人間科学科，国際言語学科

工 学 部：機械システム工学科，環境建設工学科

農学部：生物生産学科，生産環境学科，生物資源科学科

また，大学における個別学力検査を課する学部・学科についても，従来実施していた英語，数学等の科目の筆記試験を廃止してほとんどの学科が面接のみとし，受験しやすい入試制度に改善した。（教育学部美術教育専攻及び保健体育専攻は面接の他に実技試験があり，医学部医学科は面接及び小論文を課する。）

日本留学試験及び渡日前入学許可制度の導入後，琉球大学は2年間にアジア4カ国（韓国，マレーシア，タイ，ベトナム）の日本留学フェアに参加した。留学相談を通じた学部入学希望者の反応は，日本留学試験と面接のみということで強い関心を示し，中でも渡日前入学許可を導入した学部・学科には受験にかなり意欲的な反応を見せていた。また，海外での日本留学フェアの他に国内で開催される「外国人のための進学説明会」やオープン・キャンパスでの留学相談においても，入試制度が改善され受験の心理的負担が軽減されたことで，やはり入学希望者の反応がかなりよくなってきている。

このような入試制度の改善を経て，少しずつではあるが効果が現れてきている。前出の図2に示したとおり，平成15年まで二十数名で推移していた学部レベルでの留学生数が，平成16年度には33名，平成17年度には54名と増加している。表1は，平成13年度から17年度までの各学部にて在籍する留学生の内訳を奨学金別にまとめたものである（琉球大学学術国際部留学生課，2001-2005）。また表2は，平成17年度の学部入学者数（私費留学生）を示したものである（琉球大学学生部入試課，2005）。入試制度改善の効果を分析するにはまだ年数を経っていないが，学部に入学者数が少しずつ増加し，また渡日前入学許可制度を導入した学部・学科は受験者，入学者数が多い傾向がみられる。ただし，これらの入学者は，国内で日本留学試験を受験した留学生なので，渡日前入学許可をもらって入学した留学生数ではない。

表1 学部別留学生数

(1) 平成13年度 (5月1日現在)

	法文	教育	理	医	工	農
国費	1	0	0	0	1	0
私費	10	0	0	3	3	0
県費	0	0	0	0	0	0
政府派遣	0	0	0	0	7	0
合計	11	0	0	3	11	0

(2) 平成14年度 (5月1日現在)

	法文	教育	理	医	工	農
国費	0	0	0	0	1	0
私費	14	0	0	1	4	0
県費	0	0	0	0	0	0
政府派遣	0	0	0	0	2	0
合計	14	0	0	1	7	0

(3) 平成15年度 (5月1日現在)

	法文	教育	理	医	工	農
国費	0	0	0	0	0	0
私費	15	3	1	1	5	0
県費	0	0	0	0	0	0
政府派遣	0	0	0	0	0	0
合計	15	3	1	1	5	0

(4) 平成16年度 (5月1日現在)

	法文	教育	理	医	工	農
国費	0	0	0	0	1	0
私費	18	3	1	1	6	0
県費	0	0	0	0	0	0
政府派遣	0	0	0	0	2	0
合計	18	3	1	1	9	0

(5) 平成17年度 (5月1日現在)

	法文	教育	理	医	工	農
国費	0	0	1	0	1	0
私費	31	5	1	1	7	2
県費	0	0	0	0	0	0
政府派遣	0	0	0	0	5	0
合計	31	5	2	1	13	2

表2 平成17年度学部入学者数

学部	学科・課程	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	渡日前入学許可
法文学部	総合社会システム					可
	法学専攻	4	4	2	1	
	政策・国際関係専攻	6	6	2	2	
	経済学専攻	3	3	3	1	
	経営学専攻	12	12	5	4	
	観光科学	0	0	0	0	不可
教育学部	人間科学	2	2	2	1	可
	国際言語	7	7	7	5	可
	学校教育教員養成課程	0	0	0	0	不可
	生涯教育課程					不可
理学部	日本語教育コース	2	1	1	1	
	自然環境教育コース	1	1	1	1	
	数理科学	0	0	0	0	不可
	物質地球科学	0	0	0	0	不可
医学部	海洋自然科学 (化学系)	1	1	1	0	不可
	(生物系)	0	0	0	0	
医学部	医学科	3	3	0	0	不可
	保健学科	0	0	0	0	不可
工学部	機械システム工学	13	13	2	1	可
	環境建設工学 (土木コース)	4	4	0	0	可
	(建築コース)	6	6	1	0	
	電気電子工学	1	1	1	1	不可
	情報工学	1	1	1	1	不可
農学部	生物生産学	0	0	0	0	可
	生産環境学	3	3	2	2	可
	生物資源科学	1	1	1	0	可
	統計	70	69	32	21	

注) マレーシア政府派遣の私費留学生は含まれない。

日本学生支援機構の調査によると、日本留学試験を利用している大学（学部レベル）は、表3のとおり全国で386校、うち国立大学法人は84校となっている（日本学生支援機構、2005）。また、渡日前入学許可を実施している大学は、国立大学法人では14校のみである。これらの渡日前入学許可実施大学を対象とした実績調査では、平成17年度私費外国人留学生入学選抜において渡日前入学許可を得て入学した留学生は、表4のとおり全国で12大学36名、国立大学法人では3大学3名となっている（日本学生支援機構、2005）。

表3 日本留学試験利用校

1) 大学

	国立	公立	私立	合計
総数	87	77	545	709
利用大学数	84	51	251	386
利用率	96%	66%	46%	54%

(2005年9月15日現在)

(募集停止を除く)

2) 渡日前入学許可校数

	国立	公立	私立	合計
大学	14	0	43	57
短期大学	0	0	11	11
大学院	1	0	2	3
合計	15	0	56	71

(2005年9月9日現在)

表4 平成17年度入試における日本留学試験利用渡日前入学許可実施状況調査

(1) 大学数

		実施大学数		出願者があった		合格者があった		入学者があった	
大学	国立	13	(12)	7	(3)	4	(1)	3	(1)
	私立	32	(28)	14	(11)	13	(10)	9	(8)
計		45	(40)	21	(14)	17	(11)	12	(9)
短期大学	私立	11	(9)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
合計		56	(49)	21	(14)	17	(11)	12	(9)

単位：校 ( ) 内数字は前年度の調査結果

(2) 出願者、合格者(延べ)及び入学者数

		出願者数		合格者数		入学者数	
大学	国立	13	(16)	4	(2)	3	(2)
	私立	117	(62)	51	(35)	33	(23)
							非公開 1
計		130	(78)	55	(37)	36	(25)
短期大学	私立	0	(0)	0	(0)	0	(0)
合計		130	(78)	55	(37)	36	(25)

単位：人 ( ) 内数字は前年度の調査結果

(3) 出願者の出身国・地域(延べ)

国・地域名	出願者数	
韓国	113	(57)
マレーシア	11	(6)
ベトナム	3	(0)
ミャンマー	3	(0)
その他	0	(15)
合計	130	(78)

単位：人 ( ) 内数字は前年度の調査結果

### 3. 考察及び今後の課題

日本学生支援機構の調査結果からもわかるように、渡日前入学許可制度はまだ導入期ということもあって実績がやや少ない状況ではあるが、今後はこの制度を活用すべく海外からの受験者、渡日前入学許可による入学者が増加するよう各大学が努めなければならない。そのためには、何よりも海外へ向けた大学広報活動が最大の課題となる。本学では、海外で実施される日本留学フェアにおいて海外の日本留学希望者に対する情報提供を行っているが、予算の関係もあり毎年2カ国のみフェアに参加している。より多くの国・地域で継続的に広報活動を行うのが望ましいのだが、諸事情により現実には困難なので、限られた予算、人員の中で日本留学のニーズに基づいた効果的な広報活動を展開することが重要となってくる。また、海外で行う広報活動の他に、本学では昨年度台湾の出版物の広告を利用した大学広報を行った。これは台湾からの留学生が減少していることから、初めての試みで掲載したものである。その広告の中で日本留学試験を利用した渡日前入学許可についてのPRも掲載した。今年度も広告を掲載する予定なので、今後もこのような広報活動を継続して台湾からの本学受験者、入学者が少しでも増えることを期待している。その他に外国語版大学概要やホームページ等でも、入試や渡日前入学許可制度について紹介している。渡日前入学許可制度については、同制度を活用した選抜方法の定期的な点検や成果の分析等も必要であり、更にまだ渡日前入学許可を導入していない学部・学科において導入へ向けて検討する



ことも今後の課題である。また渡日前入学許可による入学者に対しては、海外からの直接の受入れになることから、特に渡日時の宿舍等生活面での支援も重要となる。「渡日前入学許可制度」のメリットを生かして海外からの留学希望者に対して本学留学への道を広げていくことは、留学希望者の負担軽減だけでなく、本学の国際交流の推進のためにも有益な手段となると思われる。

本学では、これまでは日本留学フェアの参加、外国語概要やホームページ以外の海外への積極的な広報活動は特に行っていなかったが、大学も独立行政法人となり、今後は大学の取り組みとして広告やインターネットの有効活用等海外への効果的な広報活動についても検討する必要がある。このような留学生受入れ体制や入試制度の改善、広報活動の効果はすぐには目に見えないが、長期的にはキャンパスの国際化及び活性化にもつながっていくことが期待される。

#### 参考および引用資料

日本学生支援機構ホームページ（2005）「日本留学試験利用校」

([http://www.jasso.go.jp/examination/efjuafis\\_use.html](http://www.jasso.go.jp/examination/efjuafis_use.html))

日本学生支援機構ホームページ（2005）「日本留学試験利用渡日前入学許可校」

([http://www.jasso.go.jp/examination/efjuafis\\_baij.html](http://www.jasso.go.jp/examination/efjuafis_baij.html))

日本学生支援機構ホームページ（2005）「平成17年度渡日前入学許可実施状況調査」

([http://www.jasso.go.jp/examination/efjuafis\\_riyou\\_guidancel7.html](http://www.jasso.go.jp/examination/efjuafis_riyou_guidancel7.html))

琉球大学学術国際部留学生課（2001-2005）『外国人留学生受入れの現状』

琉球大学学生部入試課資料（2005）

（琉球大学留学生センター）

## Utilizing the Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU) and Offering Pre-arrival Admission

KINJO, Kaori

**Keyword :** Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU), Pre-arrival Admission, Information activities for overseas

### Abstract

Based on the fundamental principle of the university, "the university with local and global features", our university has been promoting international exchanges, including student exchanges. Accepting international students to the university gives great opportunities to Japanese students to deepen their cultural understanding, and it is very meaningful to foster internationally-minded individuals.

Since there are relatively few international students in the undergraduate programs, comparing to the graduate schools, the university reviewed the entrance examination and admission systems and decided to reform those systems by using the Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU) in order to accept more international students to the undergraduate programs. Moreover, eight departments in the Faculties of Law and Letters, Engineering, and Agriculture decided to utilize the Pre-arrival Admission system and offer the admission to overseas applicants without coming to Japan. After reforming the entrance examination and admission systems, the number of international students admitted to the undergraduate programs is slightly increasing. In order to take advantage of this new systems and give overseas applicants more opportunities to study at our university, we have to make efforts to carry out effective information activities for overseas by, for example, advertising and making effective use of the internet.

(University of the Ryukyus)